

## 平成 29 (2017) 年度ソウハチ日本海系群の資源評価

責任担当水研：日本海区水産研究所（飯田真也、藤原邦浩、八木佑太、後藤常夫）

参画機関：西海区水産研究所、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、山口県水産研究センター

### 要 約

本系群の資源量について、資源密度指数を考慮したコホート解析により計算した。資源量は 1999 年の 138 百トンから 2004 年には 58 百トンまで減少したものの、2007 年には 115 百トンまで増加した。2009 年以降 100 百トン前後の値で推移し、2016 年の資源量は 90 百トンと推定された。資源密度指数から資源水準は中位、最近 5 年間の資源量の推移から動向は横ばいと判断した。2018 年の ABC は、再生産成功率（加入量／親魚量）が 1997～2014 年の中央値で継続するという仮定の下、親魚量の維持を管理目標として ABC 算定規則の 1-1)-(1)に基づき算定した。

管理基準	Target / Limit	2018 年 ABC (百トン)	漁獲 割合 (%)	F 値 (現状の F 値から の増減%)
Fmed	Target	31	26	0.39 (+26%)
	Limit	37	31	0.48 (+57%)

Limit は、管理基準の下で許容される最大レベルの F 値による漁獲量である。Target は、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、より安定的な資源の維持が期待される F 値による漁獲量である。Ftarget =  $\alpha$  Flimit とし、係数  $\alpha$  には標準値 0.8 を用いた。現状の F 値 (Fcurrent) は 2016 年の F 値であり、0.31 である。漁獲割合は 2018 年の漁獲量／資源量、F 値は各年齢の平均値である。

年	資源量 (百トン)	親魚量 (百トン)	漁獲量 (百トン)	F 値	漁獲割合 (%)
2013	92	44	30	0.48	33
2014	87	41	28	0.51	32
2015	87	35	22	0.39	25
2016	90	38	20	0.31	22
2017	103	52	23	0.31	22
2018	120	57	—	—	—

2017 年、2018 年の値は将来予測に基づく値。

水準：中位 動向：横ばい

本件資源評価に使用したデータセットは以下のとおり

データセット	基礎情報、関係調査等
漁獲量 年齢別・年別漁獲尾数	主要港水揚量(鳥取県、島根県、山口県) 月別体長組成調査(鳥取県、島根県) 沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁)
資源量指数	沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁)*
自然死亡係数 (M)	年当たり $M=0.3$ を仮定

\*はチューニング指数の算出に使用した情報・調査である。

## 1. まえがき

ソウハチはムシガレイなどとともに山陰沖における 1 そうびき及び 2 そうびき沖合底びき網漁業（以下沖底）、小型底びき網漁業（以下小底）の重要対象種である。ソウハチは韓国沿岸域を含む日本海全域に分布するが、韓国における漁獲の詳細は不明である。我が国の漁獲量の大半は西部海域で占められており、本報告書では日本海西部海域で漁獲される群を評価対象系群として取り扱う。

## 2. 生態

### (1) 分布・回遊

日本海のほぼ全域及び黄海に分布し、120～200m 深に多く生息する（渡辺 1956）。日本海西部海域におけるソウハチの分布を図 1 に示す。着底期の分布に関する知見は少ないが、島根県沖では調査船調査により水深 140～160m の底泥域を中心に幼魚が採集されている。

### (2) 年齢・成長

雌は 1 歳で全長 6cm、2 歳で 14cm、3 歳で 21cm、4 歳で 26cm、5 歳で 31cm、6 歳で 35cm、7 歳で 38cm に成長し、雄は 1 歳で 7cm、2 歳で 14cm、3 歳で 19cm、4 歳で 23cm、5 歳で 26cm に成長する。寿命は 7 歳以上。成長は雌の方が速く、寿命も雌が長い（図 2、石川県水産総合センターほか 1994）。

(3) 成熟・産卵

雄は2歳から、雌は3歳から成熟を始める。産卵は対馬周辺海域で1~3月頃行われると考えられているが、島根県浜田沖で産卵が行われる可能性も示唆されている(石川県水産総合センターほか 1994)。資源計算においては、3歳以上の成熟率を1とし、3歳以上の資源量を親魚量とした。

(4) 被捕食関係

エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食し、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高くなる(伊藤ほか 1994)。主な捕食者は不明である。

3. 漁業の状況

(1) 漁業の概要

漁場は漁法と所属する県で異なり、1 そうびき沖底では兵庫県船が山口県見島以東、鳥取県船が島根県大田市沖以東、2 そうびき沖底では対馬周辺海域から島根県沖、小底では島根県沖が中心である。小底の漁獲量が把握されるのは1986年以降に限られるものの、1990年代前半までソウハチの総漁獲量の80~90%を1 そうびき及び2 そうびき沖底が占めていた(図3、表1)。しかし、1998年以降、小底の漁獲割合が30%以上に増加している。

(2) 漁獲量の推移

統計が整備された1986年以降では1999年に50百トンを超えるピークが認められる。その後急減して2004年に最低の15百トン未満まで減少したが、2008年には40百トンに増加した。2009~2015年の漁獲量は22~35百トンの範囲で変動し、2016年の漁獲量は20百トンであった(図3、表1)。

(3) 漁獲努力量

1 そうびき沖底の有効漁獲努力量は1990年代には約100千網の水準にあったが、その後減少傾向を示し、2016年では43千網であった(図4、表2)。2 そうびき沖底の有効漁獲努力量は1980年代には約40千網であったが、2016年には12千網まで減少した(図4、表2)。

4. 資源の状態

(1) 資源評価の方法

漁獲量の大半を占める1 そうびき沖底及び2 そうびき沖底の漁獲統計資料から求めた資源密度指数を考慮したコホート解析により資源量を推定した(補足資料1、2、3)。

(2) 資源量指標値の推移

資源量指標値として有漁漁区数の影響を考慮した資源密度指数を用いた(図5、表2、補足資料3)。資源密度指数は1 そうびき沖底、2 そうびき沖底ともに1970年代に最高値(1 そうびき沖底 51 kg/網、2 そうびき沖底 58 kg/網)を示し、1980年代以降減少に転じて2004年に最低値(1 そうびき沖底 14 kg/網、2 そうびき沖底 9 kg/網)を示した。その後

2008年まで増加傾向を示し、以後、増減を繰り返している。2016年の1そうびき沖底及び2そうびき沖底の資源密度指数はそれぞれ22 kg/網、34 kg/網であり、両者ともに前年に比べて増加した。

### (3) 漁獲物の年齢組成

1997～2016年の年齢別漁獲尾数を推定した(図6、補足資料4)。本系群は通常、1歳で漁獲されはじめ、2歳で完全加入する。例年、2歳魚の漁獲尾数が全体の概ね半数を占めている。2016年においては、前年に比べて2歳の漁獲尾数が増加し、合計漁獲尾数も微増した。

### (4) 資源量と漁獲割合の推移

コホート解析(補足資料2)で推定した資源量(1歳以上)を図7、表3に示す。資源量は1999年の138百トンから2004年には58百トンまで減少した。2007年には115百トンまで増加したが、その後は漸減傾向を示し、2016年の資源量は90百トンと推定された。漁獲割合は1999～2003年には35～44%だったが、2004～2005年には23～25%まで低下した。2006年以降、25～38%の間で増減を繰り返し、2016年の漁獲割合は22%だった。

親魚量は1999～2000年の52百トンから2004年に24百トンまで減少し、2008年には50百トンにまで回復、その後再び減少に転じた。2016年の親魚量は38百トンとなり、前年に比べて増加した(図8、表3)。

0歳魚が漁獲されないため、産卵された翌年の1歳魚の資源尾数を加入量とした。加入量は1997～2002年まで減少していたが、2003年以降36百万尾以上に回復し、2015年には41百万尾となった(図8、表3)。

親魚量と加入量の関係を図9に示す。長期的に資源が安定していることもあり、明瞭な再生産関係は認められていない。再生産成功率(RPS)は1997、2004、2005年が他の年と比較して高かったが、近年は安定している(図10)。1997～2014年のRPSmedは11.8尾/kgであった。

コホート計算に使用した自然死亡係数(M)の値が資源計算に与える影響をみるために、Mを変化させた場合の2016年の資源量、親魚量、加入量を図11に示す。Mの±33%の増減に対し、資源量は-16～22%の増減、親魚量は-14～22%の増減、加入量は-21～28%の増減であった。加入量に与えるMの不確実性の影響が他の推定値よりも大きい傾向がある。

漁獲係数(各年齢のF値の単純平均)は2000年の0.84をピークに2005年までに0.34に低下した(図12)。その後、上昇傾向が見られるが、漁獲量の多い1そうびき沖底の有効漁獲努力量が低い水準にあることと対応して2014年まで0.41～0.57の低い水準に抑えられていた。漁獲係数は2015年以降大きく低下し、2016年には0.31となった。

### (5) Blimit の設定

親魚量は2004年に24百トンと最低となった(図8)。資源密度指数から判断される2004年の資源水準も低位であった(図5)。そこで、過去最低の親魚量からでも資源が回復した2004年の親魚量24百トンをBlimitとした。この値よりも小さい親魚量となった場合には、漁獲圧を下げて資源回復措置を図るものとする。

## (6) 資源の水準・動向

1 そうびき沖底と 2 そうびき沖底の主漁場は異なっている。また、1 そうびき沖底の漁獲量は 2 そうびき沖底に対して概ね 3 倍の値を示している。そこで 2 そうびき沖底に対して 1 そうびき沖底の資源密度指数に 3 倍の重みを持たせ、この重み付けした 1 そうびき沖底及び 2 そうびき沖底の資源密度指数の加重平均の最高値と 0 の三等分点を水準判断の基準とした。

漁獲量の比率を加味した 1 そうびき沖底、2 そうびき沖底の資源密度指数の加重平均は、2016 年では 24.9kg/網であり、低位・中位の境界である 17.6 kg/網を上回っていることから、資源水準は中位と判断した (図 5)。動向については、2012 年以降の資源量の推移から横ばいと判断した (図 7)。

## (7) 今後の加入量の見積もり

将来予測における 2016 年以降の再生産成功率には前述した 1997~2014 年の RPSmed (11.8 尾/kg) を仮定し、2017 年以降の加入量 (1 歳魚の資源尾数) を 1 年前の親魚量に RPSmed を乗じることで算出した。

## (8) 生物学的管理基準 (漁獲係数) と現状の漁獲圧の関係

年齢別選択率は 2016 年と同じと仮定し、F 値を変化させた場合の加入量当たり親魚量 (SPR) と加入量当たり漁獲量 (YPR) を図 13 に示す。2016 年の F 値 (Fcurrent: 0.31) は再生産成功率を 1997~2014 年の中央値と仮定して計算した Fmed (0.48) 及び F30%SPR (0.35) より低く、F0.1 (0.28) を僅かに上回った。

## 5. 2018 年 ABC の算定

## (1) 資源評価のまとめ

資源量は 1999 年の 138 百トンから 2004 年には 58 百トンに減少したものの、2007 年は 116 百トンに増加した。その後は漸減傾向を示し、2016 年は 90 百トンと推定された。資源密度指数より資源水準は中位、近年 5 年の資源量の変化から動向は横ばいと判断した。本系群の漁獲係数は、2006 年以降 0.31~0.57 の低い水準で推移している。また、再生産成功率は安定し、親魚量も Blimit を 1,400 トンほど上回っている。本系群の資源管理を行う上では、中長期的に親魚量を維持していくことが重要と考える。

## (2) ABC の算定

資源量を推定しており、親魚量は Blimit を上回っているため、ABC 算定のための基本規則 1-1)-(1)を使用する。ABC を算定するための管理基準値 (Limit 値) は「親魚量の維持」を目標とし、Fmed を採用した。また、不確実性を見込んだ Target 値は  $F_{target}=F_{limit} \times \alpha$  とし、 $\alpha$  は標準値の 0.8 とした。なお、2016 年以降の再生産成功率は資源計算を行った 18 年間 (1997~2014 年) の中央値 (RPSmed) で一定とし、この RPSmed に対応する 3 歳の F を探索し、各年齢の F の単純平均を計算し Fmed とした。ABC の計算の詳細は補足資料 2 を参照されたい。

管理基準	Target / Limit	2018年 ABC (百トン)	漁獲 割合 (%)	F 値 (現状の F 値から の増減%)
Fmed	Target	31	26	0.39 (+26%)
	Limit	37	31	0.48 (+57%)

Limit は、管理基準の下で許容される最大レベルの F 値による漁獲量である。Target は、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の維持が期待される F 値による漁獲量である。Ftarget =  $\alpha$  Flimit とし、係数  $\alpha$  には標準値 0.8 を用いた。現状の F 値 (Fcurrent) は 2016 年の F 値であり、0.31 である。漁獲割合は 2018 年の漁獲量/資源量、F 値は各年齢の平均値である。

### (3) ABC の評価

ABC 算定と同じ仮定のもとで、2016 年の年齢別選択性のもと F 値を変化させた場合の漁獲量、資源量、そして親魚量を下表と図 14 に示す。現状の F 値 (2016 年の F 値、Fcurrent) は「親魚量を維持する」ための F 値 (Fmed) よりも低く、資源量、親魚量及び漁獲量は徐々に増加すると予測された。

## ソウハチ日本海系群-7-

管理基準	F 値	漁獲量 (百トン)							
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
F0.1	0.28	20	23	24	28	32	37	43	49
Fcurrent	0.31	20	23	26	30	34	38	43	49
0.8Fmed	0.39	20	23	31	34	36	38	41	44
Fmed	0.48	20	23	37	37	38	37	37	38
		資源量 (百トン)							
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
F0.1	0.28	90	103	120	139	157	182	211	242
Fcurrent	0.31	90	103	120	137	152	172	197	222
0.8Fmed	0.39	90	103	120	130	137	146	158	169
Fmed	0.48	90	103	120	123	121	120	122	122
		親魚量 (百トン)							
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
F0.1	0.28	38	52	57	62	74	87	98	112
Fcurrent	0.31	38	52	57	60	70	82	91	101
0.8Fmed	0.39	38	52	57	54	59	67	70	74
Fmed	0.48	38	52	57	48	49	53	52	50

Fcurrent=2016年のFである。F値は各年齢のFの単純平均である。

## (4) ABC の再評価

昨年度評価以降追加されたデータセット	修正・更新された数値
2016 年年齢別漁獲尾数及び年齢別体重 2016 年資源密度指数	2016 年までの年齢別資源尾数、再生産関係、年齢別選択率、%SPR

評価対象年 (当初・再評価)	管理 基準	F 値	資源量 (百トン)	ABClimit (百トン)	ABCtarget (百トン)	漁獲量 (百トン) (実際の F 値)
2016 年 (当初)	Fmed	0.49	101	33	28	
2016 年 (2016 年再評価)	Fmed	0.48	86	27	23	
2016 年 (2017 年再評価)	Fmed	0.48	90	29	24	20 (0.31)
2017 年 (当初)	Fmed	0.48	86	27	23	
2017 年 (2017 年再評価)	Fmed	0.48	103	33	28	

2016 年 ABC (2017 年再評価) は当初の ABC に対しては下方、2016 年再評価時の ABC に対しては上方に修正されており、limit 値で 29 百トンに更新された。2016 年の漁獲量は 20 百トンであった。

2017 年当初の ABC (27 百トン) は 2017 年再評価時 (33 百トン) に 22%増加した。これは、今年度評価時に求めた 2016 年の資源量推定値が 2015 年までのデータから推定した値よりも上方修正されたためである。

## 6. ABC 以外の管理方策の提言

全体に占める 1 歳魚の漁獲尾数の割合は 2013 年以降低い値を示している (図 6、補足資料 4)。しかし、商品サイズにならない 15cm 以下の小型個体が投棄されている実態があることから (石川県ほか 1994)、小型個体の投棄量を把握するとともに、不合理漁獲を避ける方策が必要となる。また、本系群の漁獲主体は未成熟の 2 歳魚である。今後、改良漁具 (二段式分離選択網) による大型魚の選択的な漁獲を行い (藤原・上田 2014)、未成熟魚の保護に取り組むことが望まれる。

## 7. 引用文献

藤原邦浩・上田祐司 (2014) 二段式分離網を用いたカレイ類 3 種のサイズ選択的漁獲の可能性. 東北底魚研究, **34**, 111-114.

石川県水産総合センター・福井水産試験場・兵庫県但馬水産事務所・鳥取県水産試験場・島根県水産試験場 (1994) 水産関係地域重要新技術開発促進事業総合報告書 (重要カレイ類の生態と資源管理に関する研究), 118pp.

伊藤正木・木下貴裕・花淵靖子・小嶋喜久雄 (1994) 日本海西部海域におけるソウハチの食性について. 漁業資源研究会議西日本底魚部会報, **22**, 15-29.



渡辺 徹 (1956) 重要魚族の漁業生物学的研究, ソウハチ. 日水研報, 4, 249-269.



図1. ソウハチ日本海系群の分布

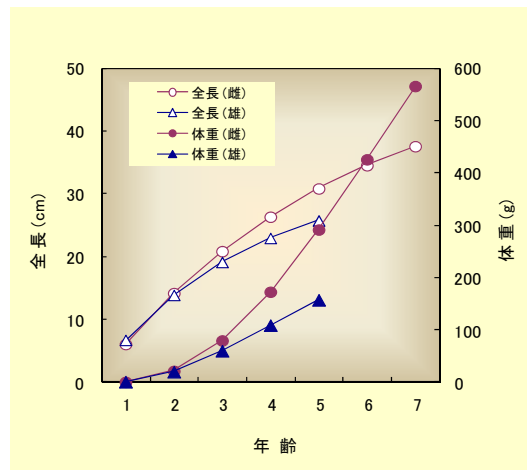


図2. 年齢と成長

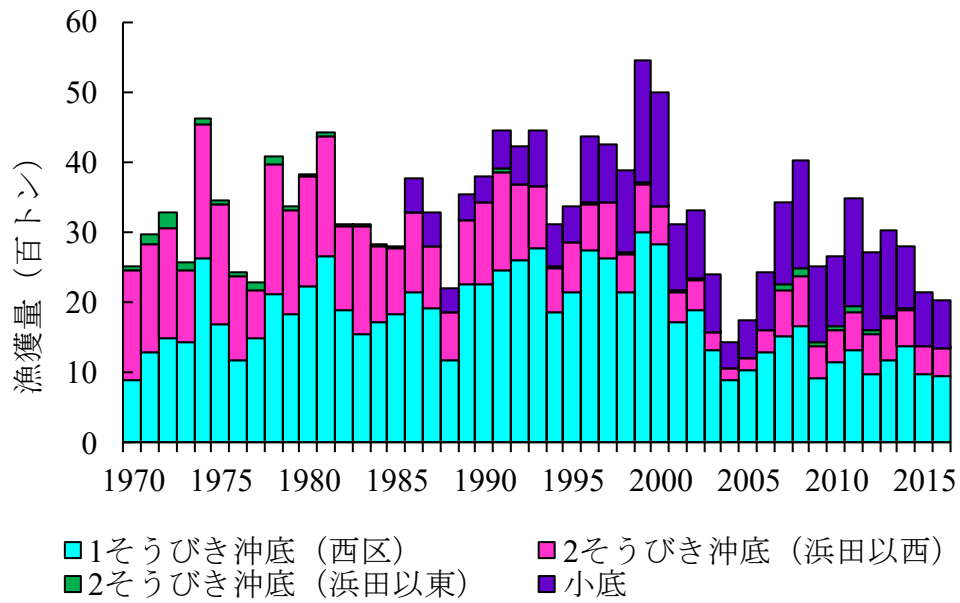


図3. ソウハチ日本海系群の漁獲量の推移  
1985年以前の小底の漁獲データ無し。

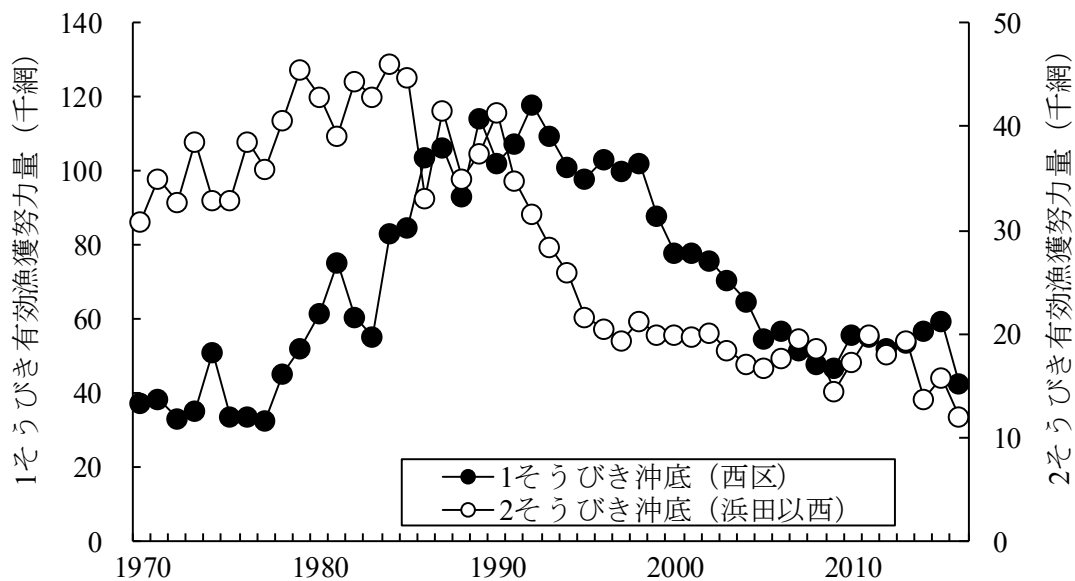


図 4. 沖合底びき網の有効漁獲努力量の推移

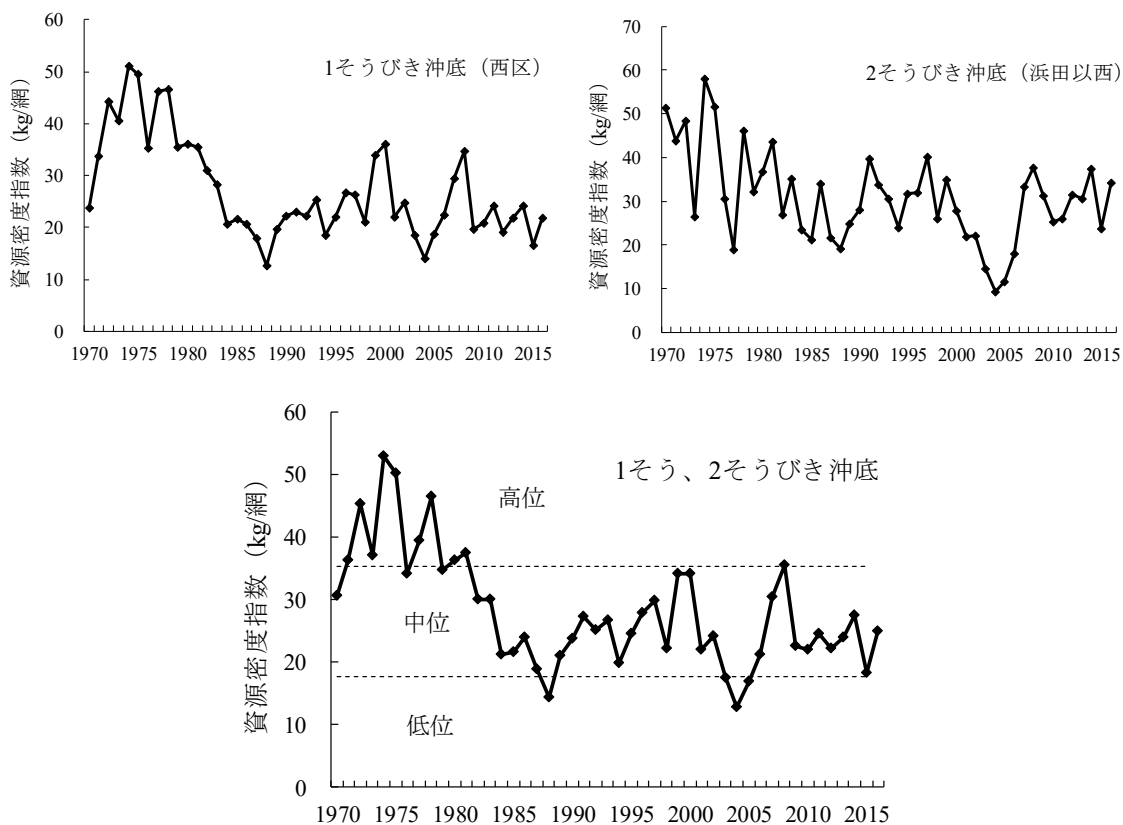


図 5. 沖合底びき網データから推定した資源密度指数の推移

1そうびき沖底 (左上図)、2そうびき沖底 (右上図)、1そうびき沖底に3倍の重みを加えた1そうびき沖底、2そうびき沖底の資源密度指数の加重平均 (下図)。図中の点線は最高点と0の間の三等分線で示された水準の境を示す。

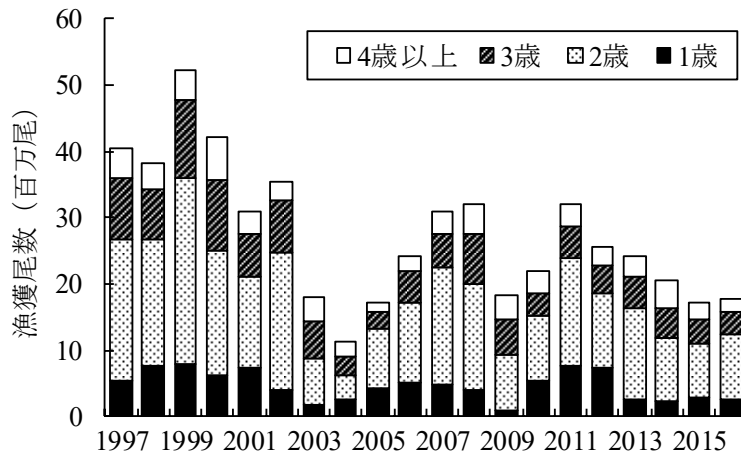


図 6. 年齢別漁獲尾数の推移

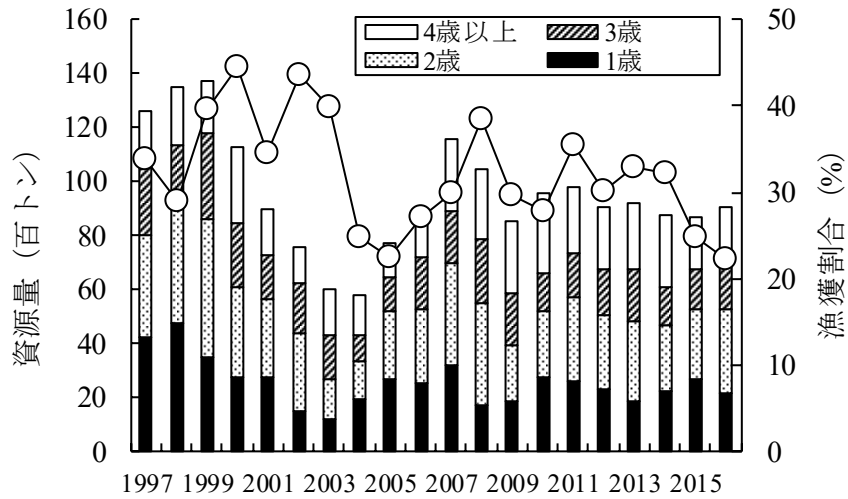


図 7. 資源量 (棒グラフ) と漁獲割合 (折線グラフ) の推移

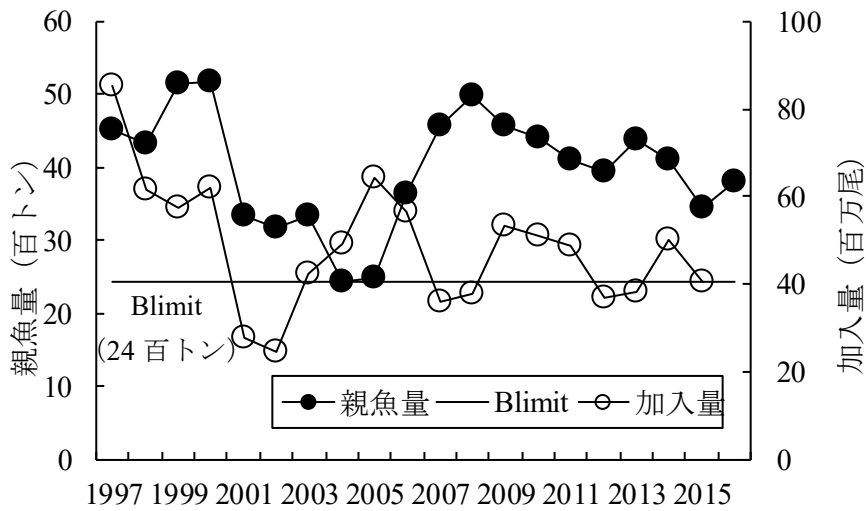


図 8. 親魚量と加入量 (1 歳魚) の推移

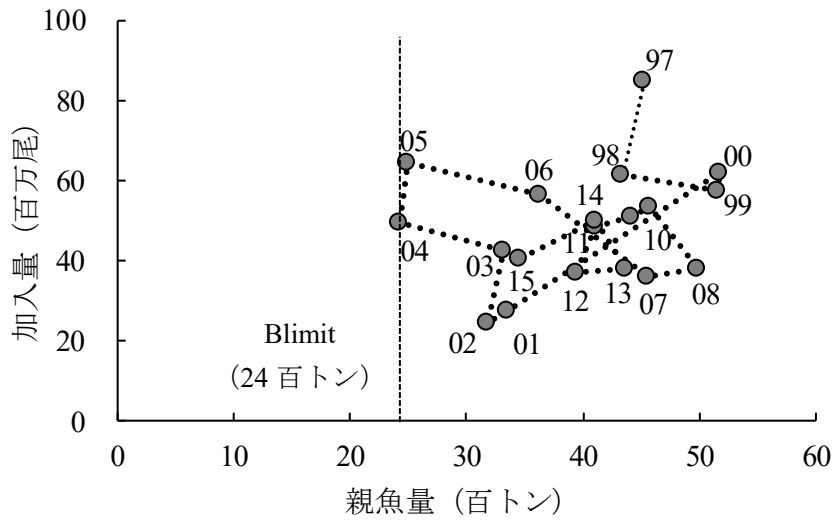


図9. 親魚量と加入量（1歳魚）の関係  
図中の数字は産卵年を示す。

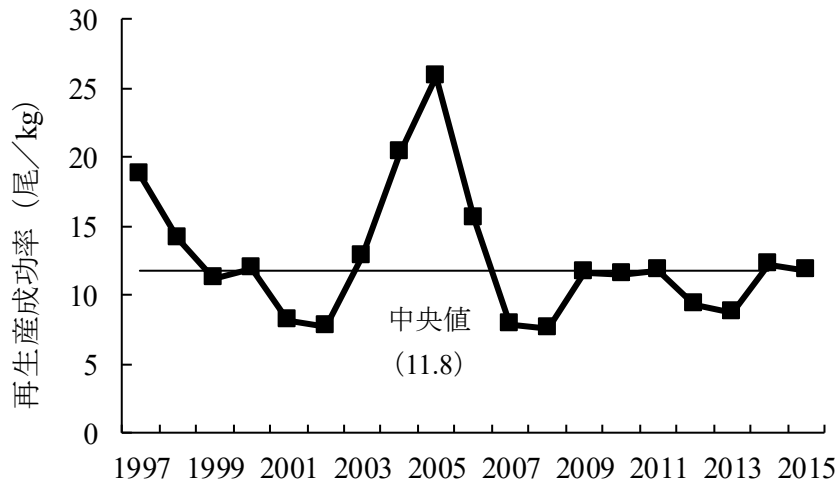


図10. 再生産成功率の推移  
中央値の値は1997～2014年のデータで計算。

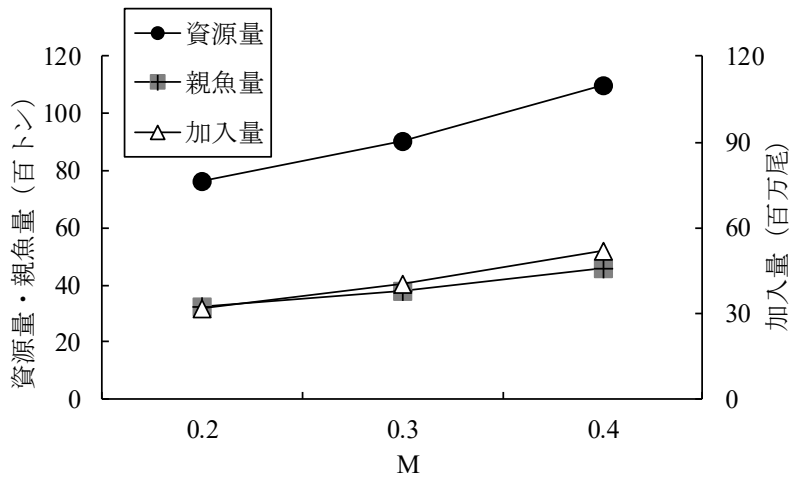


図 11. M と 2016 年資源量、親魚量、加入量 (1 歳魚) の関係

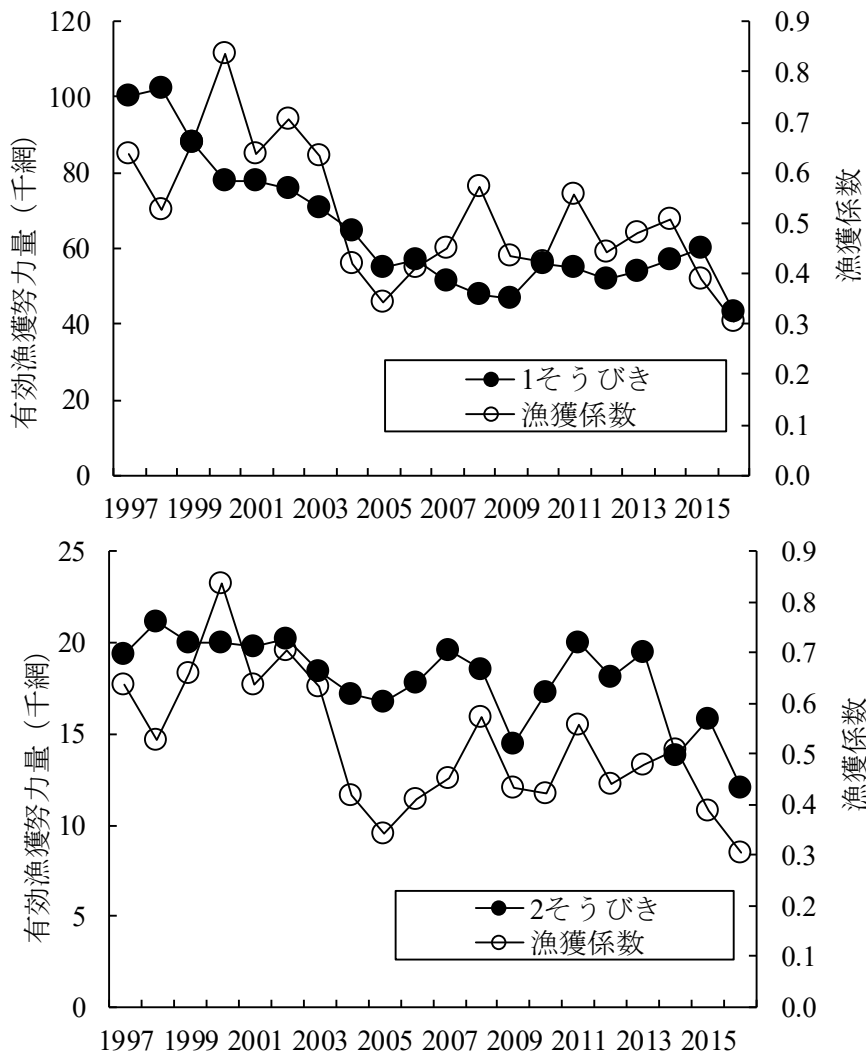


図 12. 漁獲係数と有効漁獲努力量の推移  
1 そうびき沖底 (上図)、2 そうびき沖底 (下図)。

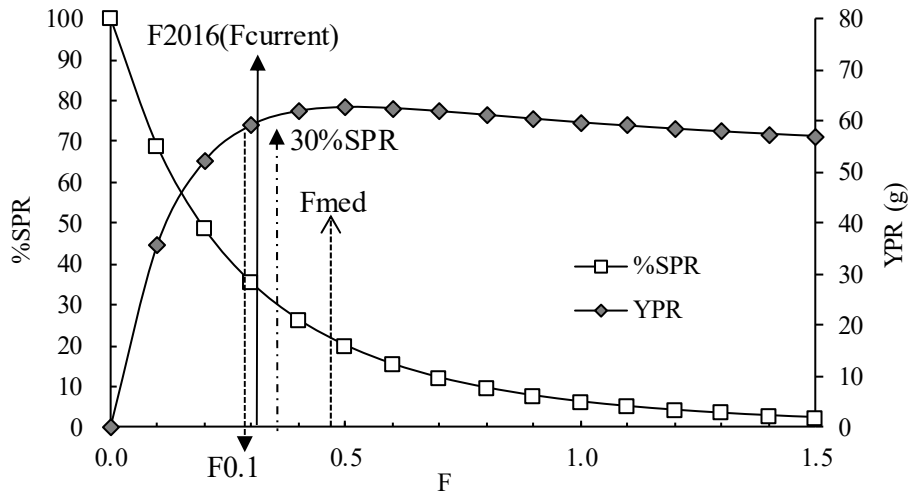


図 13. %SPR、YPR と F の関係

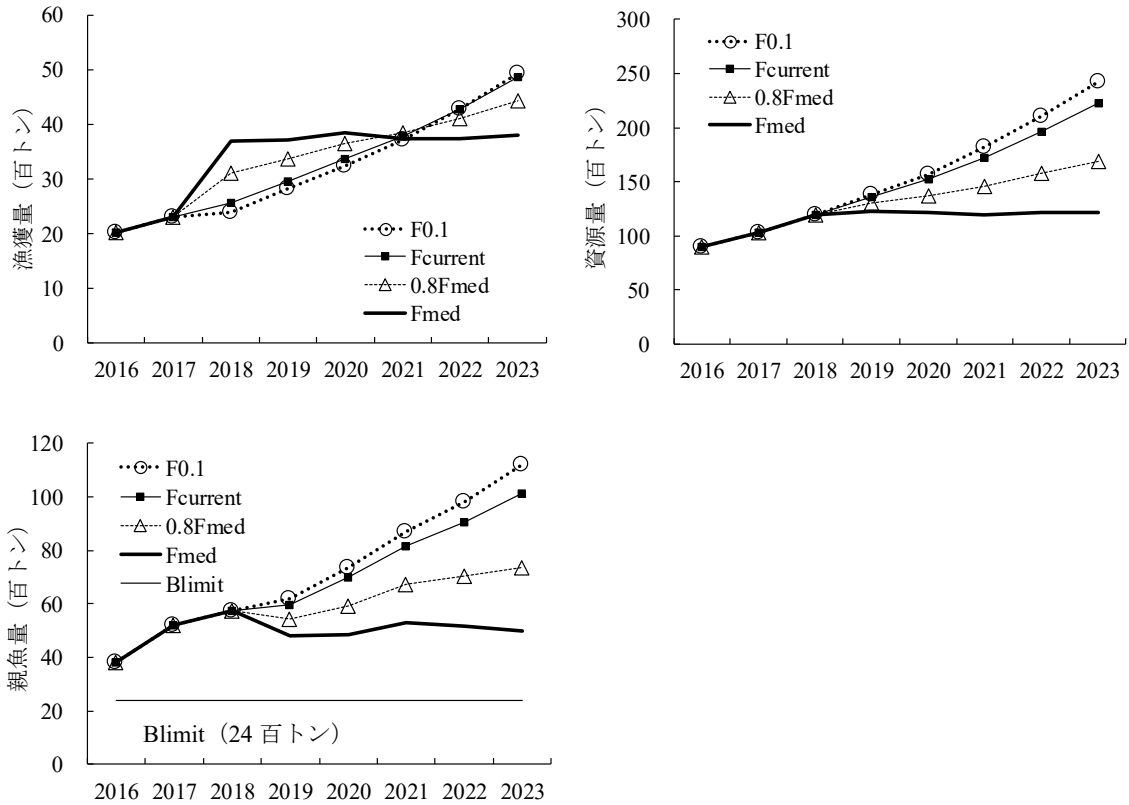


図 14. 様々な F による漁獲量 (上左図)、資源量 (上右図)、親魚量 (下図) の予測

表 1. ソウハチ日本海系群の漁業種類別漁獲量 (単位: トン)

年	2そうびき沖底		1そう沖底	小型底 びき網	計
	浜田以西	浜田以東	日本海西部		
1966	941				941
1967	792				792
1968	484				484
1969	1,488				1,488
1970	1,591	35	885		2,511
1971	1,537	150	1,298		2,985
1972	1,582	237	1,481		3,301
1973	1,028	100	1,445		2,573
1974	1,910	83	2,624		4,617
1975	1,706	61	1,688		3,455
1976	1,180	71	1,188		2,440
1977	681	99	1,506		2,287
1978	1,873	92	2,109		4,074
1979	1,468	47	1,849		3,363
1980	1,575	16	2,231		3,822
1981	1,708	55	2,673		4,435
1982	1,196	5	1,892		3,094
1983	1,514	2	1,563		3,079
1984	1,080	4	1,713		2,797
1985	949	3	1,836		2,788
1986	1,125	5	2,153	480	3,763
1987	902	1	1,913	474	3,290
1988	671	4	1,181	351	2,206
1989	929	4	2,250	354	3,537
1990	1,166	7	2,266	372	3,812
1991	1,385	39	2,476	549	4,448
1992	1,063	19	2,614	537	4,234
1993	872	15	2,783	776	4,445
1994	623	20	1,872	599	3,114
1995	687	13	2,160	502	3,361
1996	659	17	2,753	946	4,375
1997	778	11	2,638	827	4,253
1998	552	18	2,149	1,164	3,883
1999	701	26	2,991	1,742	5,460
2000	560	8	2,818	1,610	4,996
2001	437	14	1,718	940	3,108
2002	447	9	1,880	972	3,308
2003	269	5	1,313	810	2,397
2004	160	3	906	361	1,429
2005	194	2	1,026	516	1,738
2006	320	8	1,282	814	2,424
2007	653	91	1,514	1,185	3,443
2008	701	129	1,665	1,542	4,036
2009	453	64	927	1,087	2,531
2010	437	66	1,161	1,009	2,672
2011	519	91	1,335	1,538	3,483
2012	568	46	989	1,110	2,713
2013	597	46	1,175	1,214	3,032
2014	518	15	1,377	905	2,815
2015	376	17	993	773	2,159
2016	412	11	940	659	2,022



表 2. ソウハチ日本海系群の有効漁獲努力量及び資源密度指数

年	有効努力量 (網)		資源密度指数(kg/網)		
	1そうびき沖底	2そうびき沖底	1そうびき沖底	2そうびき沖底	1そう、2そうびき 加重平均
1970	37,362	30,962	23.7	51.4	30.6
1971	38,391	35,038	33.8	43.9	36.3
1972	33,536	32,693	44.2	48.4	45.2
1973	35,587	38,651	40.6	26.6	37.1
1974	51,273	32,913	51.2	58.0	52.9
1975	34,062	32,980	49.6	51.7	50.1
1976	33,733	38,645	35.2	30.5	34.1
1977	32,626	36,003	46.2	18.9	39.4
1978	45,322	40,638	46.5	46.1	46.4
1979	52,024	45,525	35.5	32.2	34.7
1980	61,736	42,795	36.1	36.8	36.3
1981	75,411	39,101	35.4	43.7	37.5
1982	60,918	44,464	31.1	26.9	30.0
1983	55,400	42,964	28.2	35.2	30.0
1984	83,312	46,122	20.6	23.4	21.3
1985	84,653	44,851	21.7	21.2	21.6
1986	104,025	33,058	20.7	34.0	24.0
1987	106,285	41,646	18.0	21.7	18.9
1988	93,127	34,976	12.7	19.2	14.3
1989	114,094	37,431	19.7	24.8	21.0
1990	102,144	41,378	22.2	28.2	23.7
1991	107,221	34,889	23.1	39.7	27.2
1992	118,035	31,546	22.1	33.7	25.0
1993	109,717	28,368	25.4	30.7	26.7
1994	101,070	25,957	18.5	24.0	19.9
1995	98,061	21,648	22.0	31.7	24.4
1996	103,441	20,633	26.6	32.0	27.9
1997	100,130	19,343	26.3	40.2	29.8
1998	102,367	21,210	21.0	26.0	22.3
1999	88,159	20,040	33.9	35.0	34.2
2000	78,092	20,014	36.1	28.0	34.1
2001	77,794	19,827	22.1	22.0	22.1
2002	76,044	20,250	24.7	22.0	24.1
2003	70,750	18,431	18.6	14.6	17.6
2004	64,666	17,198	14.0	9.3	12.8
2005	54,982	16,750	18.7	11.6	16.9
2006	57,180	17,791	22.4	18.0	21.3
2007	51,523	19,605	29.4	33.3	30.4
2008	48,017	18,579	34.7	37.7	35.4
2009	46,949	14,472	19.7	31.3	22.6
2010	55,770	17,275	20.8	25.3	21.9
2011	55,172	20,020	24.2	25.9	24.6
2012	52,071	18,083	19.0	31.4	22.1
2013	54,057	19,508	21.7	30.6	24.0
2014	56,736	13,855	24.3	37.4	27.5
2015	59,875	15,846	16.6	23.7	18.4
2016	43,021	12,060	21.8	34.2	24.9

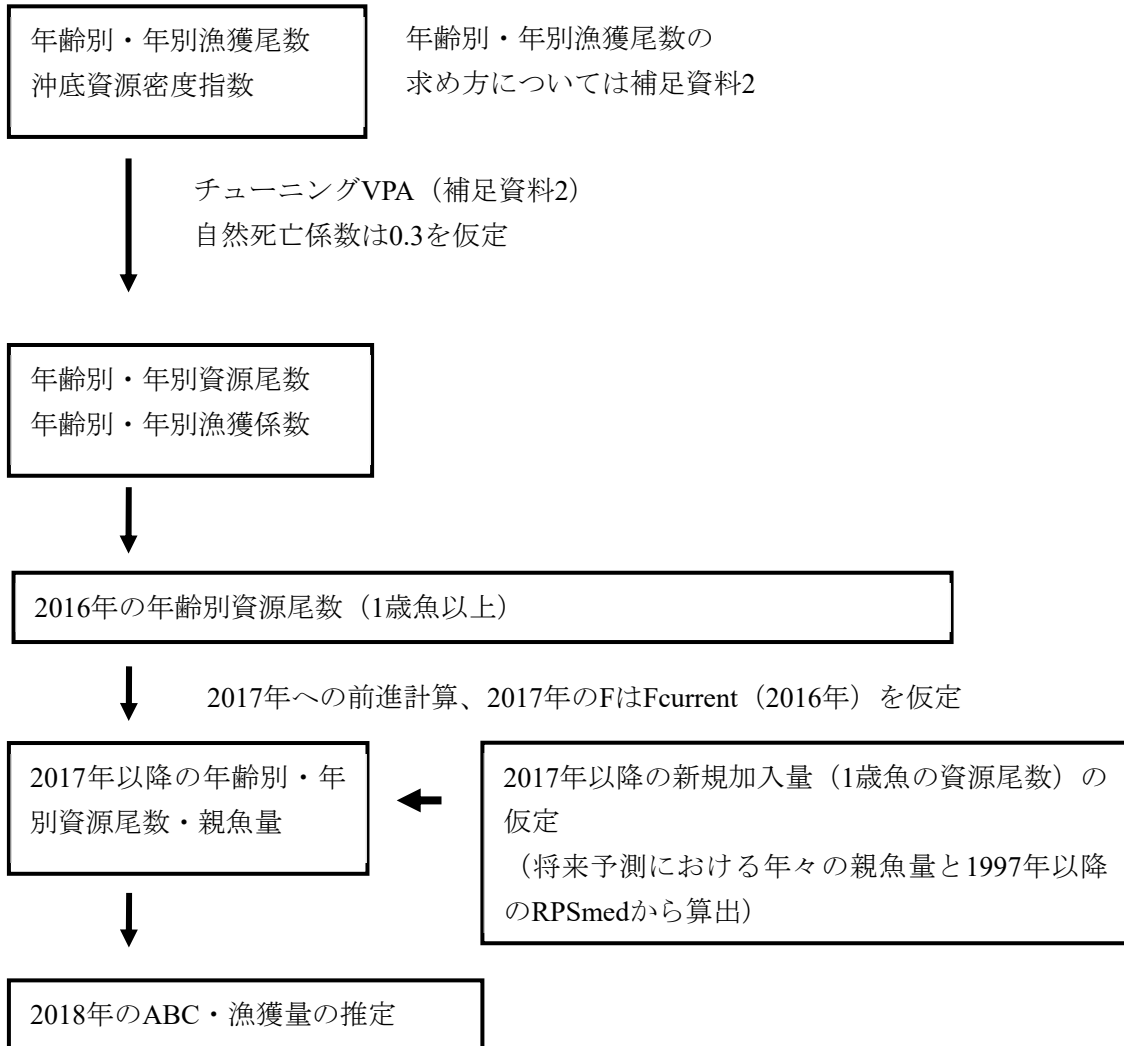
資源密度指数の加重平均は、2そうびき沖底に対して1そうびき沖底に3倍の重みを持たせて算出した。

表 3. ソウハチ日本海系群の資源解析結果

年	漁獲量 (トン)	資源量 (トン)	親魚量 (トン)	1歳加入尾数 (千尾)	漁獲割合 (%)	再生産成功率 (尾/kg)
1997	4,253	12,568	4,526	85,198	34	18.82
1998	3,883	13,455	4,336	61,537	29	14.19
1999	5,460	13,750	5,151	57,558	40	11.17
2000	4,996	11,243	5,175	62,022	44	11.98
2001	3,108	8,974	3,346	27,620	35	8.25
2002	3,308	7,583	3,177	24,441	44	7.69
2003	2,397	6,014	3,327	42,476	40	12.77
2004	1,429	5,773	2,424	49,412	25	20.38
2005	1,738	7,716	2,491	64,454	23	25.87
2006	2,424	8,913	3,628	56,438	27	15.56
2007	3,443	11,544	4,565	36,138	30	7.92
2008	4,036	10,488	4,993	37,950	38	7.60
2009	2,531	8,522	4,581	53,543	30	11.69
2010	2,672	9,598	4,416	50,955	28	11.54
2011	3,483	9,812	4,115	48,672	35	11.83
2012	2,713	9,017	3,937	37,014	30	9.40
2013	3,032	9,193	4,374	38,201	33	8.73
2014	2,815	8,750	4,104	50,176	32	12.23
2015	2,159	8,695	3,450	40,567	25	11.76
2016	2,022	9,042	3,805	-	22	-

1歳加入尾数：対象年に発生し、1歳時における尾数。

補足資料1 資源評価の流れ



## 補足資料 2 資源計算方法

## 年齢別漁獲尾数の推定

- ① 1 そうびき沖底については、鳥取県水産試験場から提供された銘柄別の体長組成、精密測定及び銘柄別漁獲量を基礎資料として用いた。具体的には鳥取県賀露港に水揚げされた銘柄別の体長組成、精密測定及び銘柄別漁獲量を鳥取県全体に引き延ばした雌雄別の体長組成を使用している。この体長組成をもとに雌雄別及び4半期別（1～3月、4～6月、7～9月、10～12月）の体長-体重関係から4半期別の体長別重量組成を求め、1 そうびき沖底（西区）の漁獲量で引き延ばし、1 そうびき沖底の体長別漁獲尾数を計算した。さらに、雌雄別及び4半期別の年齢体長相関表（平成17年度資源評価報告書）により年齢分解し、雌雄を合計して年齢別漁獲尾数を計算した。
- ② 2 そうびき沖底については、島根県浜田港に水揚げされた銘柄別体長組成と銘柄別漁獲量から、雌雄込みの体長別尾数を求めた。さらに、雌雄込みの4半期別体長-体重関係から4半期別の体長別重量組成を求め、2 そうびき沖底（島根県東部船を含む）と島根県が主体となる小型底びき網の漁獲量で引き延ばして1 そうびき沖底以外の体長別漁獲尾数を計算した。さらに、雌雄込みの4半期別の年齢体長相関表により年齢分解し、年齢別漁獲尾数を計算した。
- ③ 資源計算に用いた年齢別漁獲尾数は、上記の①、②の合計を用いた。また年齢別の平均体重は、上記の体長組成、体長-体重関係及び年齢体長相関表から求めた年齢別の漁獲重量を、年齢別漁獲尾数で除して計算した。

## コホート計算

年齢別資源尾数の計算にはPopeの式を用い(Pope 1972)、年齢別年別資源尾数を求めた。

$$N_{a,y} = N_{a+1,y+1} \exp(M) + C_{a,y} \exp\left(\frac{M}{2}\right) \quad (1)$$

ここで、Nは資源尾数、Cは漁獲尾数、aは年齢、yは年。自然死亡係数Mは、田内・田中の式(田中1960)により、最高年齢を8歳として( $M=2.5 \div \text{最高年齢} 8 \text{歳} \approx 0.3$ )求めた。3歳(添え字:3)、4歳以上(添え字:4+)には、それぞれ(2)、(3)式を使い、各年における4歳以上と3歳の漁獲係数Fは等しいとした。

$$N_{3,y} = \frac{C_{3,y}}{C_{4+,y} + C_{3,y}} N_{4+,y+1} \exp(M) + C_{3,y} \exp\left(\frac{M}{2}\right) \quad (2)$$

$$N_{4+,y} = \frac{C_{4+,y}}{C_{3,y}} N_{3,y} \quad (3)$$

ただし、最近年は、2～3歳に対して(4)式を使った。

$$N_{a,y} = \frac{C_{a,y} \exp\left(\frac{M}{2}\right)}{(1 - \exp(-F_{a,y}))} \quad (4)$$

最近年の2~3歳以外のFは(5)式を用いて計算した。

$$F_{a,y} = -\ln\left(1 - \frac{C_{a,y} \exp(M/2)}{N_{a,y}}\right) \quad (5)$$

最近年の2歳のFは、直近3年(2013~2015年)の2、3歳の各Fの平均値を求め、3歳の平均Fに対する2歳の平均Fの比率を下記で推定される最近年の3歳のFに乗じて計算した。

最近16年間(2001~2016年)の2歳魚以上の資源量と1そうびき沖底と2そうびき沖底の資源密度指数の残差平方和が最小となるように最近年(2016年)の3歳魚のFを求めた。最近16年間における漁獲量は、1そうびきが2そうびきの約3倍であるため、1そうびき沖底の残差平方和に3倍の重みを付けた。

$$\text{最小} \quad 3 \sum_{y=2001}^{2016} \{\ln(q_1 B_y) - \ln(I_{1,y})\}^2 + \sum_{y=2001}^{2016} \{\ln(q_2 B_y) - \ln(I_{2,y})\}^2 \quad (6)$$

$$q_1 = \left( \frac{\prod_{y=2001}^{2016} I_{1,y}}{\prod_{y=2001}^{2016} B_y} \right)^{\frac{1}{16}} \cdot q_2 = \left( \frac{\prod_{y=2001}^{2016} I_{2,y}}{\prod_{y=2001}^{2016} B_y} \right)^{\frac{1}{16}} \quad (7)$$

ここで、 $I_1$ と $I_2$ はそれぞれ1そうびきと2そうびきの資源密度指数、 $B$ は2歳以上の資源量、 $y$ は年。使用した年齢別漁獲尾数と計算結果を補足資料4に示す。

加入量は1歳魚の資源尾数とし、最近年の加入量は、1997~2014年のRPSmedに2015年の親魚量の値を乗じて推定した。最近年の1歳魚のFは(5)式により推定した。

#### 漁獲量(ABC含む)予測の方法

漁獲量はコホート解析でPopeの近似式を使用したことから、

$$C_{a,y} = N_{a,y} \{1 - \exp(-F_{a,y})\} \exp(-M/2) \quad (8)$$

により計算した。

2017年以降における2歳魚以上の資源尾数は2016年における資源尾数を初期値とし各年各年齢の漁獲係数、 $M$ をもとに

$$N_{a+,y+1} = N_{a,y} \exp(-F_{a,y} - M) \quad (9)$$

により計算した。また2017年以降における1歳魚の資源尾数は前年の親魚量にRPSmedを乗じて推定した。2017年初めの資源量は2017年も2016年と同じ漁獲圧( $F_{\text{current}}$ )をかけたものとみなし、また、2018年以降の資源量は $F_{\text{limit}}$ 等の管理シナリオに沿った漁獲圧をかけたものとして計算した。

#### 引用文献

Pope, J. G. (1972) An investigation of the accuracy of virtual population analysis using cohort analysis.

Int. Comm. Northwest Atl. Fish. Res. Bull., **9**, 65-74.

田中昌一 (1960) 水産生物の Population Dynamics と漁業資源管理. 東海水研報, **28**,1- 200.

## 補足資料3 漁獲成績報告書を用いた資源量指標値の算出方法

沖合底びき網の漁獲成績報告書では、月別漁区（緯度経度 10 分柘目）別の漁獲量と網数が集計されている。これらより、月  $i$  漁区  $j$  における CPUE ( $U$ ) は次式で表される。

$$U_{i,j} = \frac{C_{i,j}}{X_{i,j}}$$

上式で  $C$  は漁獲量を、 $X$  は努力量（網数）をそれぞれ示す。

集計単位（月または小海区）における資源量指数( $P$ )は CPUE の合計として、次式で表される。

$$P = \sum_{i=1}^I \sum_{j=1}^J U_{i,j}$$

集計単位における有効漁獲努力量 ( $X'$ ) と漁獲量 ( $C$ )、資源量指数 ( $P$ ) の関係は次式のように表される。

$$P = \frac{CJ}{X'} \quad \text{すなわち} \quad X' = \frac{CJ}{P}$$

上式で  $J$  は有漁漁区数であり、資源量指数( $P$ )を有漁漁区数 ( $J$ ) で除したものが資源密度指数 ( $D$ ) である。

$$D = \frac{P}{J} = \frac{C}{X'}$$

広がりのある漁場内では魚群の密度は濃淡があるのが通常であり、魚群密度が高いところに漁船が集中して操業した場合、総漁獲量を総網数で割った CPUE は高い方に偏る。そこで漁場を 10 分柘目の漁区に細分し、漁区内での密度は一樣と仮定して、魚群や努力量の偏りを補正し、資源量を指数化したのが資源量指数と資源密度指数である。

漁獲の主対象となる魚種では、分布密度が高い漁区に操業が集中することが考えられる。このような場合、資源密度指数で資源量を評価すると過大となる傾向がある。一方、漁獲の主対象ではない魚種では、その魚種の分布密度と操業区の集中とは原則無関係である。有漁漁区数の減少は漁獲の主対象となる魚種の分布密度が高い漁区に操業が集中した結果と考えられる。有漁漁区数の減少は CPUE の漁区合計値である資源量指数を過小とすることから主対象でない魚種については資源密度指数の方が良い指標値と考えられる。

ソウハチは重要魚種ではあるが、1 そうびき沖底ではズワイガニ、2 そうびき沖底ではムシガレイ（近年ではアカムツ等）が最重要魚種であるので、資源密度指数をソウハチの資源量の指標値として用いた。

補足資料4 コホート解析結果の詳細

年齢別漁獲尾数 (百万尾)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	5.3	7.7	7.9	6.2	7.3	3.9	1.7	2.5	4.3	5.2	4.9	4.0
2歳	21.3	19.0	28.1	18.8	13.7	21.0	7.0	3.8	8.9	12.1	17.6	15.9
3歳	9.4	7.6	11.9	10.6	6.5	7.8	5.8	2.8	2.7	4.7	4.9	7.6
4歳以上	4.3	3.9	4.3	6.6	3.3	2.8	3.5	2.2	1.4	2.3	3.3	4.6
計	40.4	38.1	52.1	42.3	30.9	35.4	17.9	11.2	17.3	24.3	30.8	32.1

年齢別漁獲重量 (トン)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	278	427	444	299	327	211	81	113	233	209	277	188
2歳	1,714	1,491	2,551	1,595	1,049	1,536	613	318	780	999	1,553	1,610
3歳	1,251	999	1,518	1,442	860	909	828	384	351	632	678	1,077
4歳以上	1,010	965	948	1,659	872	652	874	614	374	585	935	1,161
計	4,253	3,883	5,460	4,996	3,108	3,308	2,397	1,429	1,738	2,424	3,443	4,036

年齢別漁獲係数

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	0.08	0.11	0.16	0.13	0.15	0.18	0.08	0.07	0.11	0.10	0.11	0.14
2歳	0.74	0.50	0.86	0.83	0.56	0.96	0.64	0.30	0.43	0.56	0.64	0.68
3歳	0.87	0.75	0.81	1.19	0.92	0.85	0.90	0.65	0.41	0.49	0.53	0.74
4歳以上	0.87	0.75	0.81	1.19	0.92	0.85	0.90	0.65	0.41	0.49	0.53	0.74
単純平均	0.64	0.53	0.66	0.84	0.64	0.71	0.63	0.42	0.34	0.41	0.45	0.57

年齢別資源尾数 (百万尾)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	81	85	62	58	62	28	24	42	49	64	56	36
2歳	47	56	57	39	37	40	17	17	29	33	43	38
3歳	19	17	25	18	13	16	11	7	9	14	14	17
4歳以上	9	9	9	11	6	6	7	5	5	7	9	10
計	156	166	152	125	118	89	60	71	93	118	123	101

年齢別資源重量 (トン)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	4,226	4,749	3,471	2,777	2,774	1,507	1,180	1,936	2,655	2,560	3,161	1,691
2歳	3,815	4,371	5,127	3,291	2,854	2,899	1,506	1,413	2,569	2,725	3,818	3,803
3歳	2,504	2,206	3,171	2,407	1,662	1,850	1,619	933	1,207	1,884	1,918	2,404
4歳以上	2,023	2,130	1,981	2,768	1,684	1,327	1,709	1,491	1,284	1,744	2,647	2,589
計	12,568	13,455	13,750	11,243	8,974	7,583	6,014	5,773	7,716	8,913	11,544	10,488

年齢別親魚量 (トン)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3歳	2,504	2,206	3,171	2,407	1,662	1,850	1,619	933	1,207	1,884	1,918	2,404
4歳以上	2,023	2,130	1,981	2,768	1,684	1,327	1,709	1,491	1,284	1,744	2,647	2,589
計	4,526	4,336	5,151	5,175	3,346	3,177	3,327	2,424	2,491	3,628	4,565	4,993

年齢別平均体重 (g)

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	52	56	56	48	45	55	48	46	54	40	56	47
2歳	80	79	91	85	77	73	88	85	88	83	88	101
3歳	133	131	128	136	132	117	143	139	132	134	137	142
4歳以上	232	249	223	250	260	236	251	274	274	258	281	253

年齢別選択率

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1歳	0.09	0.15	0.20	0.11	0.16	0.21	0.09	0.11	0.26	0.20	0.20	0.19
2歳	0.85	0.68	1.06	0.69	0.61	1.13	0.71	0.47	1.05	1.12	1.21	0.92
3歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4歳以上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1



## 補足資料4 コホート解析結果の詳細(続き)

## 年齢別漁獲尾数(百万尾)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	0.9	5.4	7.6	7.4	2.5	2.2	2.8	2.5
2歳	8.5	9.7	16.2	11.2	13.8	9.7	8.3	9.8
3歳	5.3	3.5	4.8	4.2	4.8	4.3	3.6	3.4
4歳以上	3.6	3.4	3.5	2.8	3.2	4.2	2.6	2.1
計	18.4	22.0	32.2	25.6	24.2	20.4	17.2	17.8

## 年齢別漁獲重量(トン)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	45	280	390	350	126	130	146	134
2歳	753	861	1,430	1,002	1,359	933	815	860
3歳	721	491	668	589	689	617	525	444
4歳以上	1,012	1,041	994	773	858	1,135	673	584
計	2,531	2,672	3,483	2,713	3,032	2,815	2,159	2,022

## 年齢別漁獲係数

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	0.03	0.13	0.19	0.19	0.08	0.07	0.07	0.07
2歳	0.55	0.53	0.77	0.54	0.78	0.59	0.45	0.40
3歳	0.58	0.52	0.63	0.51	0.53	0.69	0.52	0.38
4歳以上	0.58	0.52	0.63	0.51	0.53	0.69	0.52	0.38
単純平均	0.43	0.42	0.56	0.44	0.48	0.51	0.39	0.31

## 年齢別資源尾数(百万尾)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	38	54	51	49	37	38	50	41
2歳	23	27	35	31	30	25	26	35
3歳	14	10	12	12	13	10	10	12
4歳以上	10	10	9	8	9	10	7	8
計	85	101	107	100	89	83	94	96

## 年齢別資源重量(トン)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	1,869	2,766	2,601	2,294	1,897	2,219	2,652	2,188
2歳	2,072	2,417	3,096	2,787	2,922	2,427	2,593	3,049
3歳	1,906	1,414	1,654	1,702	1,949	1,444	1,512	1,642
4歳以上	2,675	3,002	2,461	2,235	2,425	2,659	1,938	2,162
計	8,522	9,598	9,812	9,017	9,193	8,750	8,695	9,042

## 年齢別親魚量(トン)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	0	0	0	0	0	0	0	0
2歳	0	0	0	0	0	0	0	0
3歳	1,906	1,414	1,654	1,702	1,949	1,444	1,512	1,642
4歳以上	2,675	3,002	2,461	2,235	2,425	2,659	1,938	2,162
計	4,581	4,416	4,115	3,937	4,374	4,104	3,450	3,805

## 年齢別平均体重(g)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	49	52	51	47	51	58	53	54
2歳	89	88	88	89	98	96	98	88
3歳	135	142	139	142	145	143	146	132
4歳以上	278	304	280	275	272	273	261	275

## 年齢別選択率

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1歳	0.05	0.24	0.30	0.38	0.15	0.10	0.13	0.20
2歳	0.95	1.04	1.21	1.05	1.47	0.86	0.88	1.05
3歳	1	1	1	1	1	1	1	1
4歳以上	1	1	1	1	1	1	1	1